

注)ホームページ掲載にあたり、特定の企業名や学校名、個人の顔が判別できる写真等
が掲載されている部分は割愛しています。

ミシガン州立大学連合日本センター(JCMU) 自己評価表

対象期間2024年5月～2025年4月

ミシガン州立大学連合日本センター
彦根市松原町 1435-86

ミシガン州立大学連合日本センター実績・成果 評価検証シート

対象期間:2024年5月～2025年4月

1 ミシガン州立大学連合日本センターの自己評価

評価項目	JCMUの評価	添付資料
設置目的に沿った事業が実施されているか	全体的に出来ている。	
設置目的1 日米両国、ミシガン州と滋賀県とのさらなる友好関係の発展に寄与する	・東近江市とマーケット市の姉妹提携による奨学生の相互派遣につき、ノーザンミシガン大学から学生1人を2学期間受け入れた。また、東近江市からノーザンミシガン大学への派遣留学生選抜試験審査員を務めた。 ・米国大使館より依頼された”Ambassador Youth Council”プログラムを実施した。これは日本の大学生に米国についてさらに理解を深めてもらう為のプログラムであり当センターにそのプログラムの実施を依頼された。委託金を受けJCMUは関西地域(長浜市と彦根市から各1名を含む)の20名の大学生を対象に、日米関係に関連する多様なテーマについて、対面とオンラインの両方のセッションを企画・実施した。1月のセッションでは、ミシガン州と滋賀県の姉妹州関係について、参加者と議論する機会を持った。長浜市出身の学生は、2つあるミニグラント(各5万円)の1つに選出され、自身のテーマに沿ったプログラムの企画・運営を計画する機会を得た。彼女のテーマは「姉妹州関係のメリットについて」である。彼女が今年度中に滋賀県と連携してこのプログラムを実施するにあたりJCMUが支援する。 ・ノバイ公共図書館は、約100冊の英語の児童書を収集しJCMUに寄付、同じくJCMUは、地域の方々から約100冊の日本語の児童書の寄付を募り、ノバイ公共図書館へ送った。現在、JCMUキッズプログラムの生徒たちは、寄付された英語の児童書を活用し英語学習に取り組んでいる。	
設置目的2 ミシガン州および滋賀双方の人々が、共に学習、研究する場所を通し、お互いの語学、文化、習慣について相互の理解と認識を深める	・例年通り、米国大学生向け「日本語・日本文化/社会講座」、5月の「短期特別講座」、「夏期日本語集中講座」を実施。 ・日本人向けには、子供向け英語講座を含む各種英語講座を開講。 ・当センターのパートナー大学である滋賀大学と滋賀県立大学では、「語学交流」の時間を設け、テーマに沿って日英両言語でディスカッションをし、お互いの文化・習慣の違い等について学ぶ機会を得た。 ・当センターの日本語上級生には、彦根市近辺の企業、店舗、ホテル、レストラン等にて1学期間インターンシップを実施し、ビジネスで使う日本語、慣習、接客等を学ぶ良い機会を得た。	添付資料1 添付資料2 添付資料3
設置目的3 広く地域社会に開かれた国際教育交流の拠点とする	・水曜日の夕方を利用して、誰でも参加可能な“Wednesday Night”のイベントを実施し留学生と県民が交流できる場を設けた。 ・子供向けHalloween Partyや大人向けHalloween Partyでは、参加する県民の皆さんに欧米の文化を体験してもらえるように工夫を凝らして実施した。 ・オリンピックをテーマにしたゲームを含む、地域の子どもたち向けのイベント。 ・留学生による職場体験プログラムや長期ホームステイプログラムを通して、米国からの留学生と地元の方々(園児、児童、学生を含める)と交流できる機会を設けた。 職場体験者数: 11人 長期ホームステイ者数: 10人	添付資料4-1 4-2 添付資料5-1 5-2 5-3

プログラム内容の充実、魅力向上に取り組んでいるか	・新しく日本語上級生向けに企業、店舗、サービス業等においてインターンシップができるプログラムを開発し、今まで当センターとの接点が無かった所と関係を持てるようになった。つまり、当センターについて理解を深めていただくことに繋がった。 ・子供英語講座を含む各種英語講座には、留学生が補助として参加したため、参加者はより多くの生の英語に接する機会を持つことができた。これは、当センター特有の取組であると自負している。	
センターの取組や英語プログラム、交流イベント等の情報発信の強化に取り組んでいるか	・Facebook, Instagram, ホームページにて情報を発信している。 ・JCMUでのカロム体験(2025年2月7日実施)や日本語上級生向けのインターンシップについての記者会見の様子をメディアで取り上げてもらった(記事添付)。 ・インターンシップの受入れを依頼するにあたり、ロータリークラブの例会にて説明を行った(2025年4月15日実施)	
センターと地域や企業・教育機関等との関わりを広げる取組を行っているか。	・滋賀大学、滋賀県立大学とは、学生交換協定に基づき、各大学の学生たちと当センター留学生と一緒に授業を受け、フィールドトリップも一緒に参加することで、より一層関わりを広げることができた。 ・日本語上級生向けインターンシップの受入れを依頼するにあたり、企業訪問を実施したり、「企業との交流会」を実施することにより、企業との関わりが増えた。また新規ホストファミリーの開拓にも取り組んだ。長浜青年会議所の依頼によりJCMUの留学生が、外国人から見た長浜の魅力を発信するためのPRビデオを作成しSNSで発信した。今年の1月15日には(公財)彦根観光協会がPRする船頭体験に留学生1名が参加し、3月10日には井伊直政公の甲冑試着撮影会があり、1名がモデルとして参加した。 ・地元の団体等が主催するイベントに留学生が積極的に参加できるよう、留学生に情報を提供している。毎年8月に彦根市ゆかたまつり実行委員会が主催するゆかたまつりや多賀大社での万灯祭、毎年10月に行われる滋賀大学の文化祭「滋大祭」や「七夕祭り」、滋賀県立大学の文化祭「湖風祭」もその1つである。昨年10月には彦根商工会議所青年部事業である「TAKIBI TALK in 護国神社」に留学生14名が参加し、焚き火を囲み企業の皆様と対話を楽しんだ。3月11日には市内の英語教室に通う児童と留学生がおにぎりづくりや日本の遊びを通し交流を図った。	

2 外部評価

対象期間にミシガン州立大学連合日本センターを利用した県内企業・教育機関等のセンター事業に対する評価コメントを2件以上添付すること(様式任意)

添付資料8

3 ミシガン州立大学(JCMUの運営母体)の所見

ミシガン州立大学連合日本センター(JCMU)の存在が、ミシガン州、ミシガン州の州立大学のシステム、そして有意義な国際的取り組みの広範囲にわたる目標にとって、ユニークかつ継続的に重要であることをここに述べる。

JCMUは、1989年にミシガン州と滋賀県のパートナーシップにより設立され、世界で最も永続的な姉妹州関係の礎となっている。JCMUは、単に海外教育の機会を提供するだけでなく、ミシガン州と滋賀県という地理的に隔たった2つの地域が、共通の価値観と相互尊重のもとに結ばれ、人と人とのつながりを深めることを目的として設立された。

JCMUは30年以上にわたり、何千人ものミシガン州の学生、教職員、市民が滋賀県での生活を体験し、学ぶ機会を提供してきた。集中的な語学学習、文化体験、学問的なコースワーク、ホームステイプログラムを通して、参加者は日本社会を直接理解すると同時に、姉妹州の人々との永続的な関係を築いている。そうすることで、参加者は新たな視点、さらなる異文化間スキル、そして日本との個人的なつながりを得て、ミシガン州に戻って来るのである。

多くのミシガン州民が日本を訪れる機会がないことを考えると、こうした経験は特に重要である。JCMUは姉妹州関係を具体的なものにし、象徴的な提携関係から、学術的、文化的、専門的な交流のネットワークへと発展させている。JCMUを通じて、ミシガン州民は日本について抽象的に学ぶだけでなく、滋賀の伝統、風景、地域社会、そして人々を知ることになるのである。

JCMUはミシガン州の州立大学15校からなるコンソーシアムの支援を受けており、各校の国際教育ミッションの推進に不可欠な役割を担っている。JCMUは大小を問わず、ミシガン州の教育機関に対し、学生プログラム、教授陣の研究、グローバルな共同研究のための信頼と定評のある基盤を提供している。JCMUは、世界トップクラスの日本語と日本文化の教育を、アクセスしやすく、深く浸れる環境で提供している。

JCMUプログラムの修了生は、日米関係の強化に重要な役割を果たすことが多い。多くの卒業生が国際外交の分野で活躍し、米務省や日本政府、太平洋横断協力に取り組む非政府組織(NGO)などで働いている。また、自動車、テクノロジー、教育セクターのリーダーなど、日米両国で事業を展開するグローバル企業に勤務し、日米間の経済的結びつきの拡大に貢献している者もいる。JCMUの卒業生は、仕事上の功績や個人的なつながりを通して、親善と協力の大使として、ミシガン州と滋賀県のパートナーシップの精神を世界に伝え続けている。

グローバルな課題がますます複雑化する中、ミシガン州は文化や国境を越えて活躍できる市民や専門家を育成し続けなければならない。JCMUは、日本を理解し、国際協力を重んじ、その見識を地域社会に持ち帰ることのできるグローバルな教養を持った卒業生を育成することで、そのニーズに応えている。

JCMUは、持続的な国際パートナーシップが何を達成できるかを示す顕著な例である。JCMUは、私たちの大学、経済、そして最も重要なこととして私たちの人々に恩恵をもたらす資源である。JCMUへの継続的な支援は、ミシガン州が国際教育のリーダーであり続け、滋賀県の友人にとっての真のパートナーであり続けることを保証するものである。

ミシガン州立大学「グローバルな学習と革新部」の学部長補佐兼「海外教育事務局」のエグゼクティブディレクター

4 滋賀県の所見

対象期間において、ミシガン州立大学日本センター(以下「センター」という。)は設置目的に沿った事業を適切に実施し、滋賀県とミシガン州の姉妹交流を推進するとともに、広く県民に国際交流の機会を提供し、国際感覚の醸成に大きく貢献している。

特に、日本語上級生向けに県内企業での新たなインターンシッププログラムを開始したことは、センターのプログラムの魅力向上だけでなく、センターと地域や企業との関わりを広げるうえでも大きな成果であり、受入企業の評価も良いことから、ぜひ引き続き取り組んでいただきたい。

また、センターの留学生と滋賀大学や滋賀県立大学の学生との交流機会の創出や長浜青年会議所および彦根商工会議所の海外PRに向けた取組をセンターの留学生が支援することも、双方にとって有益な機会であり、ぜひこうした取組を今後も広げていただきたい。

センターにおいては、引き続き、その設置目的に沿って今後も適切に事業を展開し、地域や企業・教育機関等との関わりをさらに広げることにより、ミシガン州と滋賀県の姉妹交流、県内の英語・国際教育の発展に寄与することを強く期待する。

(添付1)

日本語・日本文化/社会プログラム参加者数

	年度（9月～4月）	秋学期	春学期	両学期共受講	合計（人）
1	1989-1990	32	28	28	32
2	1990-1991	37	37	37	37
3	1991-1992	37	37	37	37
4	1992-1993	60	60	60	60
5	1993-1994	51	47	46	52
6	1994-1995	32	32	32	32
7	1995-1996	31	29	24	36
8	1996-1997	16	16	12	20
9	1997-1998	27	27	19	35
10	1998-1999	22	28	11	39
11	1999-2000	39	35	26	48
12	2000-2001	45	38	18	65
13	2001-2002	25	37	12	50
14	2002-2003	37	40	15	62
15	2003-2004	39	39	14	64
16	2004-2005	41	36	16	61
17	2005-2006	49	43	24	68
18	2006-2007	49	41	19	71
19	2007-2008	40	41	14	67
20	2008-2009	53	40	16	77
21	2009-2010	47	33	15	65
22	2010-2011	42	43	13	72
23	2011-2012	49	40	15	74
24	2012-2013	39	34	12	61
25	2013-2014	37	30	12	55
26	2014-2015	35	31	15	51
27	2015-2016	36	32	13	55
28	2016-2017	50	25	40	35
29	2017-2018	39	46	23	62
30	2018-2019	39	41	23	57
31	2019-2020	29	34	13	50
32	2020-2021	0	0	0	0
33	2021-2022	0	0	0	0
34	2022-2023	42	36	16	62
35	2023-2024	35	31	13	53
36	2024-2025	27	28	13	42
	合計（人）				1,807

①

夏期日本語集中講座受講生

	年		合計（人）
1	1992		39
2	1993		50
3	1994		31
4	1995		34
5	1996		22
6	1997		30
7	1998		37
8	1999		41
9	2000		28
10	2001		36
11	2002		43
12	2003		52
13	2004		47
14	2005		58
15	2006		54
16	2007		56
17	2008		55
18	2009		48
19	2010		44
20	2011		34
21	2012		39
22	2013		23
23	2014		42
24	2015		35
25	2016		42
26	2017		44
27	2018		34
28	2019		40
29	2020		0
30	2021（オンライン）		12
31	2022（オンライン）		9
32	2023		45
33	2024		34
34			
	合計（人）		1,238

日本文化/社会短期特別プログラム（夏）、夏季インターンシップ

年				合計（人）
1999 日本文化/社会				12
2000 日本文化/社会				8
2001 日本文化/社会				9
2002 日本文化/社会				0
2003 日本文化/社会				33
2004 日本文化/社会				6
2005 日本文化/社会				12
2005 夏季インターンシップ				1
2006 日本文化/社会				21
2006 日本の環境科学				4
2007 日本文化/社会				31
2007 日本の環境科学				3
2008 日本文化/社会				6
2008 日本の環境科学				2
2009 日本文化/社会				24
2009 比較看護				1
2009 日本の環境科学				1
2010 日本文化/社会				34
2010 比較看護				2
2010 日本の環境科学				3
2011 日本文化/社会				18
2011 夏季インターンシップ				1
2012 日本文化/社会				12
2012 観光と接客業				1
2012 比較看護				2
2012 夏季インターンシップ				8
2013 日本文化/社会				13
2013 比較看護				11
2013 夏季インターンシップ				5
2013 日本の環境科学				3
2014 日本文化/社会				11
2014 比較看護				6
2014 夏季インターンシップ				3
2014 日本の環境科学				3
2015 日本文化/社会				10
2015 日本の宗教と芸術				8
2015 比較看護				9

2015 日本での英語指導法				5
2015 日本の環境科学				7
2015 夏季インターンシップ				2
2016 社会組織と統制				7
2016 日本の文化と健康				9
2016 日本での英語指導法				7
2016 日本の環境科学				3
2017 異文化間ビジネスとコミュニケーション				15
2017 スポーツと社会				7
2017 日本の文化遺産				7
2017 日本の文化と健康				8
2017 日本での英語指導法				8
2018 マインドフルリーダーシップ				6
2018 コミュニティ、文化、社会統制				9
2018 日本での英語指導法				13
2018 日本の文化と健康				5
2019 日本での英語指導法				12
2019 日本の文化と健康				9
2020 (中止)				0
2021 (中止)				0
2022 (中止)				0
2023 日本での英語指導法				8
2023 日本の刑事司法				15
2024 日本での英語指導法				9
2024 ビジネスコミュニケーション				18
2024 日本の宗教、多様性、社会				8
合計 (人)				534

③

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} = 3,503 \text{人}$$

团体・企业等

日本語上級者 (L4) 向けインターンシップ (2025年春学期)

	インターンシップ先	実施日時	人数	内容
1		毎週水曜日 10:00-18:00	1	雪山にて、オンラインショップで販売するスノータイヤ関連商品を自身が説明。その動画の撮影と編集も担当。
2		毎週木曜日 6:00-15:00	1	酒造りの補助、瓶詰、ラベル張り及び限定商品のための特設ウェブサイトを作成。
3		毎週水曜日と木曜日 7:00-11:00	1	朝食会場での接客 (日英両言語で対応)、チェックアウトの案内、スタッフへの接客英語指導、新人研修での接客英語講座担当
4		毎週水曜日と木曜日 10:00-14:30	1	接客、調理補助、店のPR動画作製、スタッフの賄い作り
5		毎週水曜日 9:30-17:30	1	【レストラン担当】 接客 (日英両言語で対応)、スタッフへの接客英語指導、調理補助

Wednesday Nights

目的：地域からの参加者（年齢問わず）とJCMU学生が、テーマに沿った

ゲームやクイズ等のアクティビティを通して、気軽にかつ楽しく

相互の言語を学び、交流することを目的とする。水曜日（木曜日）の夜に実施。

参加費は、無料。

実績：

日		テーマ	一般	JCMU留学生	合計
2017年	10月11日	ゲームナイト	16	12	28
2017年	11月15日	ドラマナイト	10	4	14
2017年	12月6日	昔話ナイト	14	4	18
2018年	1月17日	クイズナイト	12	6	18
2018年	2月7日	ドラマナイト	9	11	20
2018年	5月9日	ミステリーナイト	14	14	28
2018年	5月30日	英語でアート	15	13	28
2018年	6月20日	1分間ゲーム	19	6	25
2018年	7月11日	ドラマナイト	17	8	25
2018年	9月5日	友達作り	29	22	51
2018年	10月17日	謎解きゲーム	30	14	44
2018年	11月14日	ドラマナイト	17	8	25
2018年	12月5日	昔話ナイト	10	1	11
2019年	1月30日	英語でアート	13	10	23
2019年	2月6日	ドラマナイト	9	7	16
2019年	2月20日	チャレンジゲーム	26	15	41
2019年	3月6日	1分間チャレンジ	20	10	30
2019年	5月15日	ミステリーナイト	29	18	47
2019年	6月19日	パブクイズ	16	9	25
2019年	7月17日	ドラマナイト	14	3	17
2019年	9月18日	友達作り	25	22	47
2019年	10月16日	ドラマナイト	7	7	14
2019年	11月13日	ゲームナイト	21	14	35
2020年	2月19日	友達作り	32	19	51
2020年	3月4日	英語でアート			
2024年	7月10日	友達作り	9	18	27
2024年	11月18日	ドラマナイト	14	2	16
2025年	2月12日	ゲームナイト	31	20	51
合計（人）			478	297	775

コロナの為、中止。

Wednesday Night Activity: Speed Friending (2024 年 7 月 10 日)

JCMU の留学生との交流イベントで地域住民向けに開催しました。参加者は日本語と英語を交えての会話やコミュニケーション行いました。留学生は日本語の練習機会を得るとともに、地域住民の参加者は英会話の練習機会を得ることができます。

Wednesday Night Activity: Drama Night (2024 年 11 月 20 日)

テレビ番組、映画、アニメのクリップを英語と日本語で視聴しました。グループごとに、参加者は日本語と英語の台本を読みながらシーンを演じる練習をしました。留学生は日本語の発音とイントネーションを練習し、新しい単語や表現を学びながら、地域住民の参加者が同じように英語で練習するのを支援しました。

Wednesday Night Activity: Game Night (2025 年 2 月 12 日)

アメリカと日本のカードゲームやボードゲームをプレイしました。JCMU がほとんどのゲームを準備しましたが、一部の参加者がゲームを持ち寄り、互いに英語と日本語で遊び方を教え合いました。

これらの活動を通して、参加者同士の交流を図り連絡先を交換し、会話のパートナーとしてお互いが協力して言語を習得する機会を増やすことができます。

【子供向けハロウィン祭・大人向けハロウィン祭の内容】

子供向けハロウィン祭

日時：2024年10月25日（金）午後4時30分～午後6時

場所：ミシガン州立大学連合日本センター

センター棟各教室、大会議室、キッズルーム、宿舎棟

内容：8種類のゲームを各教室で同時に実施し、子供達は希望するゲームに参加した。

大会議室で実施した「ダンス」は、子供たちを色別に8グループに分け、時間を指定して参加してもらった。

各ゲームの進行は、それぞれの場所で留学生と英語教官が担当した。

ボランティアとして参加してくれた滋賀大学生には各ゲームで通訳を担当してもらった。

ゲーム終了後は、上記8グループが、1グループずつ宿舎棟の5アパートを訪れ、留学生よりお菓子等をもらう“Trick or Treat”を楽しんだ。

大人向けハロウィン祭

日時：2024年10月25日（金）午後7時～午後9時

場所：ミシガン州立大学連合日本センター センター棟ロビー

内容：・留学生と一般参加者が、食事をしながら交流。

・留学生と一般参加者で絵合わせゲームをし、それによって混合の小グループを作成。それ以降は、小グループで話し合っ結果を導き出すようなゲームを英語教官が実施した。

・ダンス（DJ有り）

・コスチュームコンテスト。

子供向けハロウィン祭

目的：欧米の「ハロウィン」の文化について、ゲームやTrick-or-Treat等を通して、子供たちにハロウィンを紹介し、JCMU学生たちと交流を図ること。

実績： 空欄部分は、記録無し。

開催年	子供(人)	JCMU留学生 (人)
1993年		
1994年		
1995年		
1996年		
1997年	100	27
1998年	80	22
1999年	150	39
2000年		45
2001年	71	25
2002年		37
2003年		39
2004年		41
2005年	85	49
2006年	83	49
2007年	90	40
2008年	85	53
2009年	中止	
2010年	76	42
2011年	88	48
2012年	79	39
2013年	80	37
2014年	83	32
2015年	86	34
2016年	90	24
2017年	100	33
2018年	82	35
2019年	85	29
2020年	中止	0
2021年	中止	0
2022年	中止	0
2023年	68	33
2024年	72	26

インフルエンザ流行の為。

コロナの為。

コロナの為。

コロナの為。

大人向けハロウィン交流祭

参加資格：高校生以上。

目的：市内外学生や一般参加者と、コスチュームコンテストやハロウィンに関するクイズ等で異文化交流を図る。

実績： 空欄部分は、記録無し。

	一般	JCMU留学生
1993年		
1994年		
1995年		
1996年		
1997年	62	27
1998年		
1999年		
2000年		
2001年		
2002年		
2003年		
2004年	25	41
2005年	39	49
2006年	54	49
2007年	29	40
2008年	24	50
2009年	38	40
2010年	26	42
2011年	40	48
2012年	15	39
2013年	16	37
2014年	49	32
2015年	69	34
2016年	38	24
2017年	29	33
2018年	41	35
2019年	39	29
2020年	中止	
2021年	中止	
2022年	中止	
2023年	44	33
2024年	56	26

コロナの為。

コロナの為。

コロナの為。

2 外部評価

以下は、長期ホームステイのホストファミリー、インターンシップ先、職場体験先、5月プログラムの指導教員からの評価である。

長期ホームステイ ホストファミリーS様

【終了後アンケートのコメント】

お互いの文化を交流する貴重な機会となった。

旅行では経験できない、お互いの家族や趣味・嗜好についても沢山話すことができ、言葉が通じにくい時でも寄り添い、理解しようとすることで分かり合うことが出来た。

また、何かトラブルがあった際にすぐに相談できる担当者がいたことで、安心してホストファミリーを続けることができた。

様

*職場体験：全学生対象。8週間にわたり週1回（合計20時間ほど）行うプログラム。（希望者のみ）

【担当業務】

接客・食事や飲み物の準備・スタッフの方々への接客英語のレッスン

【終了後アンケートのコメント】

自分から率先して行動し、失敗をしても何度も取り組む姿勢がとても素晴らしく、日本人である自分たちの日本語を見直す機会にもなり、大変勉強になった。

これからも学生の職場体験受け入れを楽しみにしている。

様

*インターンシップ：日本語最上級レベルの4年生が行う、合計90時間の必修プログラム。

【担当業務】

- ・フロントにてチェックイン・チェックアウトのご案内
- ・朝食ビュッフェのご案内

【貢献できた点】

- ・日本人とは異なる、明るく前向きで積極的な接客態度により、日本人若手スタッフに良い影響を与えた。
 - 日本人ゲストへの対応にも迅速に慣れ、気持ちの良い接客を表現
- ・インバウンドのお客様への対応に貢献し、英語による接客方法についての指導も実施
 - 海外からのゲストに対して、日本人スタッフの手本となるような接客を提供
 - 空き時間を利用し、スタッフに英語での接客方法を指導
 - 新入社員研修の一環として、1時間の英語指導を実施し、ホテルで頻繁に使用されるフレーズに日本語訳を添えた資料を作成

* 2025年春学期にインターンシップを引き受けていただいた5社全てが「今後も引き受けたい」と回答してくださっている。

* 同じく現在定期的に職場体験を引き受けてくださっている6事業者全てが、継続を希望されている。

2024May: Religion, Diversity, and Society in Japan

担当教官 Dr. [REDACTED] (ミシガン州立大学 宗教学准教授)

* 2024年5月に8名の留学生と共に JCMU に来日。約4週間にわたる、郊外研修を多く含むプログラムを実施された。

【プログラム終了後いただいたコメント】

”Religion, Diversity, and Society in Japan”プログラムの運営やスケジュール調整のサポートに感謝する。学生たちと共に、とても充実した時間を過ごすことが出来た。学生たちの最終課題を見て、彼らが「この1カ月は、教育的で深く人生に影響を与えた月だった」と感じているのが伝わり、たいへん嬉しく思う。

問題が無ければ2026年5月に再びJCMUでRDSプログラムを実施できればと思う。

Thank you again for all your support and planning for my RDS class. The students and I had a truly great time. I have been enjoying reading the students' final assignments, in which they regularly express how educational and impactful the past month has been in their lives. If everything works out, I hope that I could teach the RDS class again in May 2026.

* 2025年7月現在、2026年5月にふたたびDr. [REDACTED]によるRDSプログラムが実施されることが決定している。